



Collaboration



No.6
後編

今月の組入福井にJリーグを福井のスポーツ文化を変える男



県民に愛されること、
フェアプレーの精神。
これは我々の大切なミッションだ。

「私には 理想のフットボールがある。ボーラルボゼッジョンを高め主導権を握る魅力あるサッカー(トータルフットボール)。見ていて楽しい、やっていて楽しい、そんなサッカーを常に目指したい」。

現役時代は後に日本代表監督となる加茂周やブラジル代表キャプテンを務めたオスカーや、コーチ時代はFCバルセロナの監督経験を持つレシャク、ブラジル代表コーチを務めたオタシリオ、後に韓国代表やオーストラリア代表監督を務めるピムなど超一流の監督の下でコーチングを学び、指導者としての経験値を高めていった。

V・ファーレン長崎を退任した佐野のもとに複数のクラブチーム(J1,J2,JFL)からのオファーやTV解説者、サッカー教室などの誘いがあつた。その中の一つに『サウルコス福井』があつた。

「最初はビックリした。地域リーグ(アマチュアチーム)の指導経験もなかつたし、サウルコスというチームさえ知らなかつた」。佐野の監督就任を強く願つたのは『NPO法人 福井にリーグチームを作る会』の梶本知暉理事長だ。福井はまだまだスポーツ文化の偏差値が低い。しかし福井の子どもたちの為にも環境を変えていかなければならない。その為の力になつてほしい、梶本は佐野に熱く語つた。

「今まで土台のしっかりした、ある程度筋書きのできたチームを指導してきた。でも、こんな環境でチームを作っていくのも男の口蔓かなあ」。梶本と交渉を重ねていくうちに佐野の心は動いた。

47都道府県の中で人口100万人以下の県は8県、その中の5県にはJリーグのチームがある。

残りの3県が高知、島根、そして福井だ。「人口100万人以下の県だからこそ県民が一つになり、熱くなれる何かが必要なんじゃないか」と彼は考える。地域に根付いた眞の地域密着型クラブを作るため、2013年1月佐野は福井の地に降り立つた。

現在、サウルコス福井は北信越フットボールリーグ1部に所属するアマチュアチームである。ゆえに選手は平日仕事の後、毎晩20時から練習を行う。

「今では皆ギラギラした目をしていますが、最初はとにかくガッカリした」。佐野は練習初日のことをこう振り返る。仕事を終え練習場にやってくる選手たちのサッカーへ取り組む姿勢や意識を見て愕然としたのだ。選手との個別面談を繰り返し、明確な目標を設定させ意識改革を図る、サウルコスでの彼の初仕事だった。

彼が選手に伝えたことの一つに、「仕事をしっかりとやらない者は練習に参加させない」という約束がある。これはどんなに試合で活躍しようが、サッカーを理由に仕事を疎かにする人間が県民に愛されるはずがない、ということを意味する。『県民に愛される』これは地域密着型クラブチームを目指すサウルコス福井の大切なミッションの一つである。



「私たちのプレーは常に子どもたちに見られている」。佐野は選手にフェアプレーの精神も植え付けていく。現役時代から続けている『佐野イズム』とも言うべき彼の信念である。結果今シーズン、チームは北信越1部リーグでフェアプレー賞を受賞した。



佐野はGMを兼任する全権監督だ。県内企業への挨拶回り、県の経済団体や大学などの講演、地域のイベントへも積極的に参加している。オフには現役時代からのネットワークを生かし日本サッカー協会の幹部やJリーグ事務局への挨拶、J1・J2・JFLの視察、そして大学のOB会に顔を出すなど自分が培ってきたコネクションを生かした彼にしか出来ない営業活動も行っている。

佐野が理想を語りだすと「福井じゃ無理」といったネガティブな意見が出るのも事実である。その言葉を耳にするたび彼は思う…「大人がそれを言つたらダメでしょう。それじゃ子どもたちの未来はどうなるの?」と。

全権監督という激務をこなしながら幼稚園や小学校ではサッカー教室を行い、サッカーを通じた『人権啓発活動』にも力を入れている。こういった地道な活動で認知度を高め地域交流を行っていくことも、地域に根付いたチームを作る上で欠かせないことだと彼は言う。

彼はサッカーだけが強くなればいいとは思っていない、地域にスポーツ文化が



広まることが大切だと思っている。静岡県清水市や埼玉県浦和市では、誰でも・いつでも・どこでもサッカーが出来る環境がある、だからサッカーは長く愛されていく。佐野が15歳の時にブラジルで感動を覚えたように、子供に夢や環境を与えるのは我々大人の役目なのだ。

2018年の『福井しあわせ元気国体』を控えた今、スポーツの力で福井県をより一層元気にすることが出来るのではないかと思う。福井が一つになるキーワードがスポーツであり、その中の一つがサッカーなのだ。

私たちは幸せだと思う。スポーツを通して地域がひとつになって盛り上がりがれる福井を『一緒に作れる立場にいる』ことを。

佐野達、そして右腕にJのエンブレムを付けた我らサウルコスと共に歩んでいく。

サッカーは11人で戦うスポーツではない、12人で戦うスポーツなのだ。

12人目の選手、それはこれを読んでいるあなただ――

いつも我々サウルコス福井に皆様方のご支援、ご声援いただき誠にありがとうございます。

2年目となる2014年シーズンこそ私の真価が問われるシーズンだと自覚しております。スタンドからの声援はピッチで戦っている選手の耳に届き、皆様の応援が彼らのパワーの源になっております。つまり皆さんはサウルコスの12番目の選手なのです。

『すべての夢は叶えられる、それを追う勇気さえ持ち続ければ』
(ウォルト・ディズニー)

今こそ「チーム福井」として共に戦い、Jリーグを目指しましょう。

佐野 達



●取材:前田 剛和・宮本 隆行 ●撮影:梅林 俊也(asure)

●デザイン:青木 良幸(SP-7) ●写真提供:サウルコス福井





福井県青年会議所の皆さんと足羽川堤防の清掃活動

地域活性化

サッカーの試合には、多くの観客が集まり大きな歓声に包まれます。友人や家族とスタジアムに足を運び福井のチームを応援することによって一体感や郷土への愛着が生まれます。

試合以外でも様々なイベントを展開し、参加して頂くことより、皆様に楽しんでいただき、地域や家庭での会話がはずむようなコミュニティが作られます。我々サウルコス福井は、福井県民全ての皆様に愛され、福井の誇り、地域のシンボルとなるクラブとなつて、Jリーグへの昇格を目指します。福井の皆さん、一緒に福井にJリーグチームをつくりましょう。



人権啓発活動

福井県、福井地方法務局、及び福井県人権擁護委員連合会と連携して、人権啓発活動を実施しています。



清掃活動への参加

福井青年会議所の皆さんと足羽川堤防の清掃活動に参加致しました。



仕事とサッカーの両立

選手は全員がアマチュアです。日中は仕事をしており雇用先企業様には勤務にご理解頂いています。



サウルコスの一員として、共に働く。
サポートイング☆スタッフ募集中!
詳しくはHPをご覧下さい。

サウルコス福井|

検索

サウルコス福井
オフィシャル
フェイスブック

CLICK!  Find us on
Facebook